

2009. 9月

英6R

囲碁を文化と世界平和の使節に！

尊敬するアメリカ大統領バラク・オバマ殿

今年4月にプラハでなされたオバマ大統領の核兵器廃絶に関する講演は人類にとって記念すべきものと思います。

この宣言は原子爆弾の被爆者を初め、核兵器を廃絶して世界平和を望む人々に大きな喜びと希望を与えてくれた歴史的講演と思います。これを機に核兵器廃絶の機運が世界的に一層盛り上がってきました。

広島原爆投下は、私たち日本の囲碁ゲーム愛好家にとって忘れられない「原爆と囲碁」について一つの史実があります。それは広島で行われた囲碁のタイトル戦「原爆下の囲碁対局」というものです。

この事件は、囲碁を通して世界の人々と手を結び核兵器廃絶と世界平和に役立つとの強い思いをこのときの対局者に与えました。その意思是日本の囲碁界に広く受け継がれています。

「原爆下の囲碁対局」のエピソードと、囲碁を世界平和と文化の使節として普及活動をしている人々がいることを、この機会にオバマ大統領にお伝えしたいと思い立ちこの手紙をしたためました。

原爆下の対局

1945年には、日本の敗戦が濃厚ではや囲碁どころではないという状況でした。当時の唯一の囲碁タイトル戦は「本因坊戦」でした。囲碁界の重鎮、瀬越憲作は「人類の垣根を越えて、心を交流し、平和を築く、それが囲碁の心であり、道である」と常々強調し実践していました。それゆえ、本因坊戦だけは万難を排してやらねばならぬと準備を進め、対局場を広島市に決めました。

しかし、米軍機による空襲のため、対局者と対局関係者が対局場に会することが困難でした。漸く7月に、タイトル保持者橋本宇太郎本因坊と挑戦者岩本薫、および瀬越ら関係者が広島に集まることができました。

第一局は、7月23, 24, 25日の3日間で行われ、岩本の勝ちでした。この間、米軍艦載機が市内を機銃掃射し、対局場の屋根も壊れるほどの危険な状態でしたが、対局者も観戦者も防空壕に避難することなく、この対局を打ち終わったそうです。

第2局目は8月4, 5, 6日の3日間でしたが、広島市内は危険なので郊外に対局場を移して行われました。ここで原爆にあったのです。

そのときの記録：対局3日目の6日の朝、8時過ぎ、空襲警報も解除されたので、始めようと前日までの手順に従い石を並べた。その時、空に一機の米軍機。落下傘が高い空からきらきらと光りながら降りてくと、ピカッと閃光が広がった。写真を撮るためのマグネシウムをたいたように対局場が真っ白になった。そのうちに、広島上空に入道雲のようなものがむくむくと持ち上がり、異様な物音が轟々と迫ってくるようだ。あっという間に爆風が対局の部屋はに突っ込んできた。気がついてみると、橋本は庭の芝生に突っ立っていた。瀬越は畳の上に茫然と座り込み、岩本は碁盤の上うつ伏せになっていた。窓ガラ

飛来機

（この関係者は筆舌をこらさず、）

スもなにもかも吹き飛がされていた。しばらくして、部屋を取り片づけ、午後になってから再開し、橋本の勝ちとなった。大変な爆弾らしいということは想像できたが、広島市内の様子はまだ判っていない。囲碁が終わった頃、対局場の前を原爆で傷ついた被災者たちがぼろぼろに焼けただれた衣服で通り始めた。その有様は時間とともにひどくなり、地獄絵と化していきました。広島市内の被害は筆舌に尽くしがたい残酷な状況であった。

対局場は爆心地から10キロメートルほど離れていたもので、瀬越や対局者は奇跡的に命拾いをしました。（第3局目以降は当然中止になりました。）

囲碁を通して世界に人の和を、そして平和を！

これ以降、岩本薫人生観は変わりました。いっぺん死んだのだ、そのつもりでこれから囲碁会のために尽くそうと決心したそうです。その通り岩本は、海外各国に囲碁センターをつぎつぎ建設し、囲碁普及を通して世界平和へ貢献するという瀬越憲作の情熱を受け継いで一生を捧げたのでした。

また、橋本宇太郎も「囲碁は平和のための使節です。世界平和には碁が一番いいと信じます。だから平和の時代に囲碁は最も盛んになるのです」と常々言っていました。

「原爆と囲碁」の奇しき因縁は、「囲碁と平和」を一層強く結びつけたように思えます。

囲碁は単なるゲームではない、「一種の文化である」といわれています。「文化としての囲碁」には、礼儀を重んじ、人々の和を作り、智を磨くことで立派な人格を育成するという意味が込められています。囲碁が神秘的なゲームであることだけでなく、なにか奥深い哲理を含み、しかも人間同士の心が言葉なくても交流しあうという不思議な親和力をもっているからでもあります。

囲碁が国際的に普及し「世界的ゲーム」になったので、囲碁を通して人の和を造り世界平和の基礎を築くことに貢献するでしょう。瀬越憲作の意思を受け継いで、囲碁を世界平和に活かそうという気持ちは、日本の囲碁界に今も強く引き継がれています。

核兵器廃絶と世界平和を強く希求する日本の囲碁愛好家の思いをお汲み頂くようお願い致します。

敬具

2009年11月 日

「補足」 「囲碁」とは

囲碁は19×19路の盤面に黒石と白石を1個ずつ交互に置いて行き、囲んだ地の大きさを競うゲームです。

囲碁は別の名を「手談」といいます。「手談」とは、言葉は通じなくとも、対局者が碁盤の上に黒石と白石を交互に一手ずつ打つことにより、自らの意思と相手の意図を互いに読み取ることで心が通じ合う、というところから生まれた素晴らしい呼び名です。

また、他のゲームにはない囲碁の特徴は、盤面には何もない無の状態から始めて、2人が交互に石を置きながら一つの宇宙（新世界）を作り上げていく構築型のゲームというこ

とです。

囲碁は本来「地を分かち合う」ゲームであるとみることができます。地は全部で361路と決まっています。その地を奪い合うのではなく分かち合うゲームならば、調和（バランス）が自然の姿となります。だから囲碁の本質は平和主義なのです。